

日本の展望委員会（第2回）議事要旨

1. 日 時：平成20年9月18日（木）8：30～10：00
2. 場 所：日本学術会議6-C（1）会議室
3. 出席者：金澤委員長、広渡副委員長、唐木幹事、海部幹事、浅島委員、
鈴村委員、土居委員、北島委員、柘植委員（欠席：佐藤委員）
（テーマ別検討分科会）
地球環境問題分科会 河野連絡世話人
持続可能な世界分科会 山内連絡世話人
世界とアジアのなかの日本分科会 猪口委員長
情報社会分科会 武市委員長
社会の再生産分科会 江原連絡世話人
（事務局）竹林局長、綱木次長、井上企画課長、渡辺参事官、他
4. 議 題：1) 前回議事要旨（案）の確認
2) 各分科会からの報告
3) 今後の進め方について
4) その他
5. 資 料：資料1 日本の展望委員会（第1回）議事要旨（案）
資料2 日本の展望委員会 今後の進め方について（案）
資料3 日本の展望委員会の下に設置される分野別作業分科会及びテ
ーマ別作業分科会の会議の開催について
参考1 委員名簿
参考2 日本の展望委員会 役員・開催日一覧
6. 議事概要
（1）議題 1) 前回議事要旨（案）の確認
前回議事要旨の確認がなされ、資料1 議事要旨（案）が承認された。

（2）議題 2) 各分科会からの報告
各分科会の委員長、連絡世話人から報告があった。

人文・社会科学作業分科会（広渡 清吾 委員長）
〔第一回 9月2日開催、第二回 11月11日開催予定〕
・人文・社会科学の固有の問題を提起するため、分野別で議論する共通課題を
検討した。①グローバル化に対応した在り方。②社会的ニーズへの対応、③分
野の研究者養成。
・成果を報告書（A4 10枚～15枚）にまとめる。

生命科学作業分科会（唐木 英明 部長）

〔第一回 10月2日開催予定〕

- ・委員会の日程が決まったら、分野別委員会委員長に準備していただく内容を分科会で検討する。

理学・工学作業分科会（海部 宣男 委員長）

〔第一回 9月17日開催、第二回 10月27日開催予定〕

- ・理工学分野全体として、①理工学各分野の学術の展望、②その分野からの社会的貢献、③それらを実現するための課題、を検討する。
- ・各分野別委員会からのレポートをとりまとめ、100ページくらいの報告書を作成する。

基礎科学の長期展望分科会（海部 宣男 委員長）

〔第一回 9月16日開催、第二回 10月21日開催予定〕

- ・基礎科学の長期展望を検討するにあたり、3点の検討を行う。
 - ①現代社会における学術研究（社会的状況の変化に対応して、学術研究の重要性についての位置づけと意義を整理）
 - ②基礎科学研究が当面する課題と基盤の強化（日本学術会議からの提言を踏まえた総合的な検討）
 - ③長期展望としての「学術基本法」（学術研究の体制を強化・構築する長期的視点から、「学術基本法」の可能性を検討）

持続可能な世界分科会（山内 皓平 連絡世話人）

〔第一回 10月6日開催予定〕

- ・いろいろな分野が関係する大きなテーマである。地球環境問題分科会との合同開催についても検討。

地球環境問題分科会（河野 長 連絡世話人）

〔第一回 9月26日開催予定〕

- ・地球温暖化の課題別委員会から引き継ぐことがかなりある。持続可能な世界分科会とも重なる部分があるので、最初はともかく、今後、合同開催することを検討。

世界とアジアのなかの日本分科会（猪口 孝 委員長）

〔第一回 9月16日開催、10月2日開催予定〕

- ・第一回委員会を始めるにあたり、委員から文書で意見を聞き、20枚を超える文書ができている。
- ・世界における日本の存在は低下。グローバルリーダーはもちろんリージョナルリーダーとしての立場も危うい。政策共同体との連携の弱さ、言語力の問題が大きい。
- ・環境・食料・公衆衛生など、サブスタンティブな問題についても具体的に検討。

大学と人材分科会（大垣 眞一郎 連絡世話人）【欠席】

〔第一回 9月25日開催予定〕

安全とリスク分科会（唐木 英明 委員長）

〔第一回 9月9日開催〕

- ・安全とリスクの問題については、社会が注目しており、取り上げる課題としては、年金、工業製品、食品、医療などがある。個々の事例から総合的な結論を導き出すこととしたい。
- ・リスク管理をどのレベルまで、誰の責任で、誰の負担で行うか。どのように検証するか。政治的な関与はどうあるべきか等の問題もある。

個人と国家分科会（広渡 清吾 委員長）

〔第一回 9月3日開催、第二回 10月30日開催予定〕

- ・3月まで、毎月1回できるだけ、多様な視点で委員から話題提供いただき、ブレインストーミングを行う。4月にレポートの素案をまとめる。
- ・教育、社会福祉、子と親の権利、個人と個人の関係に国家がどのように介入するかなど、社会の具体的な事例に基づいて検討を行う。

情報社会分科会（武市 正人 委員長）

〔第一回 9月16日開催、第二回 10月20日 or 23日開催予定〕

- ・次回以降の分科会で、関連する委員会のこれまでの提言・報告をサーベイする。
- ・情報と文化・社会との関係、情報技術の表と裏、ボーダレス、国際的視点などの検討を行う。
- ・次回の分科会までに、必要なキーワードを委員から提出してもらうこととなった。

社会の再生産分科会（江原 由美子 連絡世話人）

〔第一回 9月24日開催予定〕

- ・少子高齢化、雇用、家族、結婚（未婚化、国際結婚）、教育、福祉、医療などにおいて、安定的システムをどのように構築するかが検討課題になる。

各分科会説明後の意見交換の概要は以下の通り。

- ・分野別作業分科会の検討課題としては、①学術研究の方向、②社会的課題解決の方向、の2つがあるが、②については、掘り下げていくと、テーマ別検討分科会の検討内容に近づくので①に重点を置くべき。
- ・分野別作業分科会とテーマ別検討分科会のどちらかだけで検討するということではない。全体の調整については、来年4月に設置される起草委員会の仕事になる。ただし、他の分科会の議論は知っておいた方がよい。
- ・研究分野のコラボレーションが進む中で、従来のように論文だけが成果ではなく、ソフトの成果、共同資産へのアクセス、実験データの保存、透明性の確保等が問題になる。
- ・情報社会分科会で議論してほしいが、グローバル化の論点の中に、学問リソー

スやコミュニケーションの問題は、潜在的に入っているので、分野別作業分科会でも情報化の論点として共有できると思う。

- ・日本の研究は、立派なのにアプリシエイトされていない。技術はあるのにビジネスになっていない。もはや、アジアの盟主ではないという現状がある。
- ・日本の研究は進んでいるのにプレゼンスが低い。語学力、思考力に問題がある。
- ・行政との関わりでは、諸外国ではサイエンティストが対応するようなことを行政官が行っていることが問題。
- ・リソース、規制緩和、公私などの問題は検討が必要。また、研究評価についても検討すべき。
- ・21期における進めるにあたって、以下の3点に留意する。
 - ①学協会との連携を取りながら、各分科会において検討を進めてほしい。
 - ②過去の日本学術会議の議論を取り込みながら、発展させてほしい。
 - ③議論の最終像だけでなく、議論の過程を記録として残してほしい。

(3) 議題 3) 今後の進め方について

広渡副委員長から資料2について、渡辺参事官から資料3について説明があった。意見交換等の概要は以下の通り。

- ・最終提言冊子「日本の展望」を取りまとめるために各分科会から起草分科会に提出される、分野別作業分科会の3つの報告書とテーマ別検討分科会の10の報告書は、最終的には公表できるかたちで取りまとめる。
- ・メール会議、電話会議の開催についても検討。
- ・日本の展望委員会の各分科会の議事録等の情報を共有することも必要。

(4) 議題 4) その他

次回の日本の展望委員会（第三回）は、10月3日（金）17:00- 開催する。